

完全な護(まも)りの中で

[詩編 19 編 1～15 節]

【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。】

天は神の栄光を物語り 大空は御手の業を示す。

昼は昼に語り伝え 夜は夜に知識を送る。

話すことも、語ることもなく 声は聞こえなくても

その響きは全地に その言葉は世界の果てに向かう。

そこに、神は太陽の幕屋を設けられた。

太陽は、花婿が天蓋から出るように 勇士が喜び勇んで道を走るように

天の果てを出で立ち 天の果てを目指して行く。その熱から隠れうるものはない。

主の律法は完全で、魂を生き返らせ

主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。

主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え

主の戒めは清らかで、目に光を与える。

主への畏れは清く、いつまでも続き 主の裁きはまことで、ことごとく正しい。

金にまさり、多くの純金にまさって望ましく 蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。

あなたの僕はそれらのことを熟慮し それらを守って大きな報いを受けます。

知らずに犯した過ち、隠れた罪から どうかわたしを清めてください。

あなたの僕を驕りから引き離し 支配されないようにしてください。

そうすれば、重い背きの罪から清められ わたしは完全になるでしょう。

どうか、わたしの口の言葉が御旨にかない

心の思いが御前に置かれますように。主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ。

[1] 詩編—自由に想像力を働かせて読もう

10月と11月は旧約聖書の「詩編」の中から、ご一緒に聴いて参りたいと思います。今日は先ほど「交読文」でも読んだ詩編 19 編です。有名な詩編の一つです。

「詩編」はあまり難しくとらえないで、お一人お一人がその「詩」から、自由に想像力を働かせて味わっていくことが良いのではないかと思います。ですので、これが唯一の解釈・見方であるということはありません。これからお話をさせて頂くことも、私自身がここから味わったこと、ということになるだろうと思います。

[2] 宇宙の中の神様の愛と配慮

この詩編 19 編は、前半と後半が内容的にクッキリと分かれている感じがあるので、もとはそれぞれ別の時代の詩であったのではないかとされているようです。ただそうだとすると、これをドッキングさせたのは、信仰的な理由がある筈です。前半は随分大きな宇宙的なスケールのことを歌い、後半は神様の律法、つまり神様からの戒めや主の言葉の尊さを歌っていますよね。私は、改めて何度もこの詩編を読み返してみて、前半と後半は一つの点で一致していると思いました。それは、**人間に対する神様の護(まも)り**という点です。そしてその神様の配慮というものは、驚くほど完全だということです。

初め(2節)節から見てみましょう。詩人はまず、**広い所**へと私たちの目と心を向けさせます。

—「**天は神の栄光を物語り 大空は御手の業を示す**」。

落ち着かない日常の中、或いは、不安がいっぱいの日常生活の中であって、詩人は私たちに**天**を見上げさせるのですね。今日は良いお天気になりました。少し遠くの山へでも行って、そこではマスクを外して、深呼吸をして青空を仰ぎたいですね。それだけで私たちはどれだけ癒された気分になるのでしょうか。聖書の言葉では、「人間」は「**アンスロポス**」と言うのだそうですが、その意味合いは、「**上を見上げる存在**」ということだと聞きました。人とは何者か。それは「**上を仰ぐ者**」だと。「大空は御手の業を示す」とありますが、この宇宙も神様の創造物です。けれど、神様はそれをただご自分の楽しみにのためにお創りになったのではなく、ちっぽけな人間という存在が、上を見上げて生きてゆけるように大空を作り、私たちに謙虚にするために果しのない宇宙を造って下さった、そのような神様の、人間に対する思いを、この詩人は感じているのではないのでしょうか。

そして、この宇宙はこの肉声では聞こえないけれども「**神様の言葉**」に満ちていると言うのです。「**昼は昼に語り伝え 夜は夜に知識を送る。話すことも、語ることもなく 声は聞こえなくても その響きは全地に その言葉は世界の果てに向かう。**」

この地球の回転によって昼が生まれ、夜が生まれます。それによって私たちは生きています。この宇宙が終わるまで、一つの意志が、そこに生きる存在(人間たち)を生かし続けている。天地創造の時、「**神の霊が水の面に動いていた**」(1:2)とありましたけれども、この地球の表面には神様のご意志が満ちているのではないのでしょうか。だから「**その響きは全地に その言葉は世界の果てに向かう**」と詩人言います。この世界の「**全ての場所**」です。例外はありません。

そのもっともよい例が、**太陽**の存在です。5節の終わりからですが、「**そこに、神は太陽の幕屋を設けられた。太陽は、花婿が天蓋から出るように 勇士が喜び勇**

んで道を走るように 天の果てを出で立ち 天の果てを目指して行く。その熱から隠れうるものはない」とあります。もちろん太陽が神様であるということではありませんが、太陽も神様の意志によって作られ、この太陽系宇宙の秩序を守る役割を与えられています。太陽には凄いエネルギーがありますが、それはまるで喜びの火の玉のようだと詩人は言うのですね。花嫁を迎えた花婿の喜び、勝利の知らせを告げる勇士のように生命力に溢れています。そしてその太陽の熱から隠れうる者はない、と言うのですね。ここでの熱とは、口語訳聖書では「暖まり」となっていました。この暖まりにこうむらない者はないと言うのです。イエス様の言葉を思い起こしますね。「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ」(マタイ 5:45)と、分け隔てをなさらない天の父なる神様の愛を語っておられました。どのような人間も、この神様の暖かい愛から除外されている者などないのだ！ と。

以前、アメリカのテレビ局が製作した、『神様は太陽のあたたかさ』という映画をテレビで見たことがあります。そのドラマで印象深い言葉がありました。癒し難い悲しみを背負ってしまった一人の若い女性(看護師)が、病院で親しくなったがん患者さんである老婦人に、「神様はいるのかしら」というようなことを言うのですね。そうするとその老婦人は彼女に「神様はあなたのことを知っていて下さっているわ。今すぐじゃないかもしれないけれど、太陽のような暖かさであなたを癒して下さるわ。地球には夜もあるでしょ。それは、太陽が今は他の場所で必要な人に光と暖かさを放っているから。神様も同じ。太陽の暖かさは、待っていればきっとあなたにやって来るわ」というようなことを語るんですね。神様は、時に私たちに「待つ」という訓練も課すことがあると思いますけれども、神様がいない訳じゃない。この詩編で、太陽が「天の果てを出で立ち 天の果てを目指して行く。その熱から隠れうるものはない」とあるように、私たちは試練の中にあっても、神様の御手の「外」にいるのではないのですね。

[3] 神の「言葉」はイエス・キリストとなって

この詩の後半(8節以下)は、主の言葉(旧約では具体的に律法です)が、私たちの魂を生き返らせてくれるという所から、「神の言葉」がどれ程人間にとって尊いものなのかということを詩人は歌っていると思います。「言葉」は、既に、宇宙に響いているのだということを語っていましたが、今度は抽象的じゃないのですね。神様は具体的な言葉で私たちを護られる。“誰の”言葉を聞くか、というのは本当に大事なことだなあとこの頃とても思われます。私たちは弱い存在ですから人の言葉に動揺したり、時に疑心暗鬼になったり、誰かのことを信じられない気持ちになってしまったり…。そんな時は結構しんどいです。自分の至らなさも見えてきて、何もかも投げ出さなくなってしまうこともあります。私

もそうなんです。ですから、是非祈って頂きたいです。何をかという、人間の声ではなく、神様の声を第一に聴き、従って行けるように祈って頂きたいと思えます。神様の言葉は、本当は私たちを真に生かすものであって、11 節にあるように、それは、「**金にまさり、多くの純金にまさって望ましく 蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い**」ものなのですね。神様の言葉の甘さを、スウィートさを、私はきちんと味わっているだろうか？と思えます。それは、初めから甘いものじゃないかも知れません。何故なら 13 節にあるようにそれは、「**知らずに犯した過ち**」や「**隠れた罪**」、また 14 節にある「**驕り**」や「**重い背きの罪**」をも明るみに出すからです。出来れば隠しておきたい。けれども、丁度お医者さんが、悪い所にメスを入れてそれを取り除いてくれるように、神様は**光の治療**をして下さるのだと思えます。この宇宙を造って下さった大いなる方が、私という存在が滅びないように、**闇の中に入れてくる光**として**イエス様**を送って下さったのです。このお方は、私たちを本当に生かすために**自らを十字架に捧げて下さったお方**です。ですからこの詩編でも、最後には「**私の贖い主よ**」と、贖い主を、この詩人の信仰の中で捉えているのだと思えました。このお方こそ、「**神のご意志**」、「**神の言葉**」そのもののお方です。このお方によって、私たちは、完全に護られているのです！ 死の向こうの命も約束されているのです！

これからご一緒に歌う新生讚美歌 86 番「**輝く日を仰ぐとき**」の 2 節では、天地を造られた神様が、主イエス様を私たちに送って下さり、十字架の贖いを成し遂げて下さった恵みを歌っています。3 節ではさらに、私たちの内側を造り変え、清い魂を持つ者として下さる、と賛美しています。

聖書の言葉は、私たちを「**広い所**」、自分を殻の中に閉じ込めるのではなく、**大空のもとへと導いてくれます**。この人間の力が及ばない宇宙を造られた主が、私の創造者でもあるということ、また、そんな大きいお方が、今、このちっぽけな私を本当に**愛し、受け入れ、赦し、いつまでも共にいる**と約束して下さっている。こんなに確かな護り、完全な護りはありません。

ご一緒に主を讚美しながら、今月も前に進んでまいりましょう。

お祈り致します。